



丸田産業株式会社 常務取締役 井上弘雅 様

おかやまミツバチプロジェクト桃太郎ハニーラボ 代表

<https://www.maruta-g.jp/>



岡山県では初となる「都市養蜂」を通じて、SDGsを推進する丸田産業(株)。(※天満屋グループの事業持ち株式会社) 主導するのは、常務取締役の井上弘雅さんです。井上さんは天満屋の商品部バイヤーから岡山店副店長、米子店店長と、数多くの実績を重ねてきた生粋の百貨店マン。昨年ビル屋上の有効活用の一環として「おかやまミツバチプロジェクト桃太郎ハニーラボ」をスタートさせると、その取り組みにマスコミ等の取材が殺到。単なる養蜂に留まらない、井上さんの手腕が光るSDGsな取組みを伺ってきました。

※[企業情報](#) | [天満屋 \(tenmaya.co.jp\)](https://www.tenmaya.co.jp/)

今、都市養蜂が注目されています

▶まず、都市養蜂を始めたきっかけから教えてください。

丸田産業のビルは岡山駅前の一等地にあり、ビル屋上の有効活用が課題でした。そんなときに東京の「銀座ミツバチプロジェクト」の前理事長 田中さんにお目にかかったのです。既に全国100か所以上で連携する社会貢献活動で、「岡山でも是非立ち上げましょう」と話が進みました。

[銀座ミツバチプロジェクト - \(gin-pachi.jp\)](https://www.gin-pachi.jp/)

田中さんのお話で今でも心に残っているのが、アフガニスタンで人道支援をされ、志半ばでお亡くなりになった中村哲医師です。ある日先生が、東京に来られて「現地の人に養蜂を教えて欲しい」と依頼されたそうです。荒れた大地に水をひき、緑が育ち、食料はとれるようになったが、それだけでは栄養価が足りないので、ハチミツを食べさせたいと思ったそうです。その後先生の遺志はひき継がれ、アフガニスタンでも現在、養蜂場が開設されています。

実は今、この養蜂が各所で注目されています。養蜂は紀元前8千年前から始まったといわれ、かつてアインシュタイン博士が「この世からミツバチがいなくなると4年後に人類も滅亡する」と言ったとされるほど、環境汚染地域では生きていけない「環境指標生物」。他にホタルやアユもそうです。ちょうどSDGsの取組みも念頭にありましたので、時機を得たと思いました。

全くの素人からのスタートと支援の広がり

▶「都市養蜂」は岡山県では初となる取組みとのこと。ご苦労はなかったですか。

「何がわからないのかもわからない」ところからのスタートで、とにかく無我夢中でした。同時に岡山駅前を始めるとなれば、地元町内会を始め、県や警察、消防など関係各所への申請や挨拶まわりもあります。養蜂組合への新規入会や、食品を扱うためのHACCP研修など、やるべきことが目の前に山積していました。

また、養蜂業は思った以上に忙しく、誰かに手伝ってもらわなくてはなりません。私はもちろん、部下も皆仕事がありますから、ボランティアを募集することにしました。ふたをあけてみれば高校生から60代までの仕事もちながら、環境に興味がある、SDGsの取組みがしたいという人たちが28名も集まってくれました。現在2年目に入りましたが、瓶詰め作業は就労支援の人たちが手伝ってくれるなど、支援の輪がどんどん広がっています。

自ら歩いて目視で作成 半径3キロの「蜜源マップ」

▶率直な疑問で恐縮ですが、岡山駅前に本当にミツバチがいるのですか？

います(笑) 実は初年度から目標の2倍以上のハチミツ340キロがこのビルの屋上でとれたんです。ミツバチの行動範囲は半径2~3キロで、そこに蜜がとれる花々があることが条件です。実際この周辺を歩いてみると街路樹をはじめ、とても蜜源に恵まれた立地であることが分かりました。3月から4月は後樂園の「サクラ」、5月から6月は桃太郎大通りの「ユリノキ」アクラ通りの「クロガネモチ」というふう。それを確認するのは、実際にミツバチが飛んできているかどうかを自分で見て確認するというとてもアナログな方法です。それをまとめたのが手作りの「蜜源マップ」です。

▶最先端技術が使われたのかと思いましたが、実はアナログな手法だったんですね。

歩いているとき、街路樹のサクラの木にサクランボを見つけたのも嬉しい新発見でした（笑）
都市養蜂のいいところは、（特に市街地の屋上は）天敵（スズメバチやカマキリ、カエルやアリ）
がない、農薬の散布がないなど、ミツバチにとってとても暮らしやすい環境であることです。

アナログばかりではなく、岡山大学の農学部を始め大学との連携も進んでいます。岡山大学は特に
SDGs推進では全国トップと言われている、都市と郊外それぞれのミツバチの生体から、ストレス
度合を測ることで、採蜜や糖度にどう影響してくるかを今一緒に、研究しているところです。
また地元の高校生が、「蜜源MAP」を検証したいと、花粉の組織を季節ごとに調べることを申し
出てくれました。活動がきっかけとなって、岡山のSDGsが益々広がっているのが嬉しいです。

出口戦略を常に意識して商品化

▶岡山は養蜂戸数が全国3位と、昔から養蜂の盛んな土地柄ですが、ハチミツが採れても、売れなくて
困っている養蜂家さんが多いと聞きますが...

初年度から予想を上回る量のハチミツが採れたので早速商品化することにしました。90g 1080円と
決して安くはない値段設定ですが、天満屋の「食品売場」などを中心にすぐに売り切れました。
きっとお客さまには「4月から7月だけという希少性や岡山駅前で季節ごとの花から採れる芳醇な
百花蜜」というストーリーも心に響いたのではないのでしょうか。私自身、長く百貨店でバイヤーもし
ていましたので、お客さまがどうやったら買って下さるのか、常に出口戦略を考えて商品化を行っ
ていることもあります。また、「安心・安全」のための検査もきちんと実施しており、ここまで厳しく
管理しているところは少ないと思います。

コラボも色々行っています。去年は源吉兆庵と「おかやまハニー&レモンヨーグルト」をお歳暮に
合わせて販売したところ、即完売。また、岡山のふるさと納税返礼品に選ばれた「木枠入り百花蜜」
は、真庭市の佐田建美(株)の檜の間伐材をつかった「組子細工」でパッケージも廃棄されないように
工夫しました。今、企画しているのが昨年お客さまの声にヒントを得て考えている「携帯用のハチミ
ツゼリー」。商品開発は岡山に工場がある健康食品メーカーとのタイアップを考えています。

養蜂を通じて人や組織とつながる

▶大学との連携や、地域住民の見学会、環境教育など、養蜂を通じての地域や人とのつながりが
どんどん広がっていますね。

ミツバチの飼育という全く予想もしなかった取組みを通じて、わずか1年余りで大変多くの方と
SDGsでつながり、連携させて頂いています。「岡山ESD推進協議会」（持続可能な開発のため
の教育）の登録メンバーにも参加し、「岡山市SDGs推進パートナーズ」にも選ばれました。
企業活動の継続はSDGsなしにはこれからの社会、考えられないのかもしれないかもしれませんね。

特に子供たちには生態系の循環を学ぶきっかけに、地域には緑化促進や地域振興の一助になればと
いう思いでやっています。環境教育も学校など色々なところで行っていますが、農政局からの依頼
で、小学生の親子60名を集めて行ったときは、子供の頃から農業に興味を持ってもらわないと、
20年後の農業従事者は今の2割くらいになってしまうという話も伺いました。

今後はこの取り組みを通して、生物の多様性をより多くの人に知ってもらい、自然環境との共生を
売りにした岡山の「街づくり」につなげていけたらと思います。



インタビューを終えて

多忙なかでも、とても楽しそうに「ミツバチ」のお話しをしてくださる井上常務。初めての採蜜の
瞬間、巣箱をあけたらふわっと「サクラの香り」がしたそうです。養蜂家になったわけではない、と
笑ってお話しになりますが、いつもトップ自らが先頭にたって、汗をかいている姿に、多くの人や
組織は、応援したくなるのだと感じました。軽やかに目の前に出来た道を歩いているとSDGsに
つながるフィールドが次々に広がってきた、そんな風を感じたインタビューでした。